

■徳富愛子 徳富蘆花の妻。「不如帰」から「富士」まで、実質的に共著者であった。

とくとみあいこ

佐賀の乱・・・1874＝ 熊本県菊池郡隈府町(菊池市)に生れる。酒造業原田弥平次の長女。本名藍。筆名蘭芳・黄花。

明治14年政変1881＝ 7歳：

岩倉具視没・1883＝ 9歳：

内閣発足・・・1885＝11歳：一家で熊本市に移り住む。

帝国憲法發布1889＝15歳： 熊本師範学校付属小学校、
熊本英学校女子部を経て、

大本教・・・1892＝18歳： 東京女子高等師範学校を卒業し、一時日本橋の有馬小学校に勤務。徳富蘇峰の経営する「国民新聞」の記者
蘆花と結婚。

日清戦争始・1894＝20歳： 赤坂氷川町・逗子・原宿・青山と転々とした。

子規句歌革新1898＝24歳： 逗子居住中、大山巖の娘信子の話から、蘆花が主人公武男の手紙を書き、愛子とその返事を書くといった
二人の協力で、

小説の国産化・1900＝26歳： *小説「不如帰」が生れた。

田中正造直訴1901＝27歳：

日露戦争終・1905＝31歳： キリスト教に入信，安中教会で洗礼をうけた。

韓国併合・・・1910＝36歳：

明治天皇没・1912＝38歳：

ベルサイユ条約・1919＝45歳： *第一次世界大戦後の世界情勢を見るため、蘆花とともに外遊。第二のアダムとイブであるとの自覚から、
日子・日女と名のつて、パレスチナ・ジュネーブ・ワイマールなどをまわり、ロンドン入りした。その経験を二人でまとめたのが旅行記録「日本から日本へ」である。

原敬首相暗殺1921＝47歳： その後、やはり共著で自己告白的長編小説「富士」を著し、
護憲三派圧勝1924＝50歳： 刊行開始、

金融恐慌・・・1927＝53歳： 蘆花と死別、
共産党事件・1928＝54歳： *「富士」が完結。

海軍軍縮条約1930＝56歳： 「蘆花全集」20巻を刊行し、
満州事変・・・1931＝57歳：

二二六事件・1936＝62歳： *蘆花没後10年にあたり、東京と大阪で、遺品展・記念講演会を開催。千歳烏山の旧居を東京市に寄付し、

日中戦争始・1937＝63歳：

健保+総動員 1938＝64歳： 自らの意向に添い、公園となる(のち、蘆花恒春園)。

日米開戦・・・1941＝67歳：

敗戦・・・1945＝71歳：

新憲法公布・1946＝72歳：

新憲法施行・1947＝73歳： 没した。
郷里菊池市城山に蘆花の文学碑と愛子の髪塚が建っている。